

2017年10月24日 森林林業フォーラム2017 (神戸芸術センター)

## 「減災研究から見えてくる森づくり」

主催：兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター

本フォーラムは、森林林業技術センターが取り組む減災研究及びその関連研究の内容と成果を広く一般に公開するために開催した。

午前の部では、森林の地上部に着目し、兵庫県立大学名誉教授の服部保先生による講演「六甲山の植生遷移と樹林化に伴う防災上の課題」のあと、神戸市の松岡達郎氏による「神戸市における六甲山森林整備戦略と木材利用」の話題提供や、当森林林業技術センター職員による表面侵食防止に向けた森づくりとフラワーセンターでの森づくり事例、木材活用研究を発表した。

午後の部は、研究成果や行政施策等の展示物について各担当者の説明から始まり、名古屋大学環境学研究科准教授の平野恭弘先生による講演「樹木根研究の最前線～減災上の観点から～」のあと、当センター職員によるナラ枯れと根系の土壌緊縛力との関係、表層崩壊防止の評価について話題提供した。パネルディスカッションでは、コーディネータは兵庫県立大学教授の大橋瑞江先生、パネリストは平野先生、松岡氏、ひょうご森の倶楽部の福田正氏、森林林業技術センター所長の戸田政宏の計5名で、会場からの質問を踏まえつつ、減災研究、減災教育、減災生活の3つのキーワードのもと、討論を行った。現地見学会として、土石流水路模型実験の実演、神戸市森林整備戦略事業地の視察、樹木根引き抜き試験の実演を行った。

本フォーラムには、国・県・市など行政機関や研究機関、民間企業関係者、コンサルタント、一般から124人の参加者があり、日頃の減災研究から得られた成果を日常の森づくりに活かす提案や仕掛け、残された課題について議論を行った。またフォーラムを通して多くの質問と今後の要望が寄せられ、減災研究およびこれらの技術開発について、広く関心が高いことを感じさせられた。

